

科目名	芸術学								
科目名(英)									
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐伯 洋子				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年								
授業概要	幅広い年齢層と接する際のコミュニケーションツールに歌を用いる事が出来る様に童謡・唱歌・抒情歌・懐メロ・ポップスを中心に歌唱練習。コミュニケーションゲームを授業の導入に使い、羞恥心を捨て・他人に優しい、気遣いの出来る神経を育てる。「わらべ歌」や「手話」を歌いながら手遊びする。呼吸法やストレッチで体の筋肉の使い方を学ぶ。自己アピール発表会の場を設け、クラス全体でプログラム作りから、企画・構成を考え、開催する。クラス全体のコミュニケーション作りも学ぶ。								
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△				
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標				
	○		○	○	コミュニケーションツールとして歌を用いることを学び、歌唱について説明できる。				
		○	○	○	呼吸法やストレッチで体の筋肉の使い方を学び、歌唱を実践できる。				
			○	○	コミュニケーションツールとしての表現をプログラム、企画・構成し、発表することができる。				
テキスト・教材 参考図書	日本のうた101 プラス6曲…野ばら社 参考文献: なかよしあそびうた…ドレミ出版 指あそび手あそび123…チャイルド社 こどもの手話ソング集…民衆社 美しき日本のうた…野ばら社 その他								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	自己紹介、腹式呼吸の説明・実施				呼吸法・ストレッチについて調べておくこと。			
	2	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について振り返り確認しておく。			
	3					講義内容について振り返り確認しておく。			
	4					講義内容について振り返り確認しておく。			
	5					講義内容について振り返り確認しておく。			
	6					講義内容について振り返り確認しておく。			
	7					講義内容について振り返り確認しておく。			
	8					講義内容について振り返り確認しておく。			
	9					発表の内容について、個人、集団でアピールする内容を決めておく。			
	10					発表当日までの質問事項を整理しておくこと			
	11					発表当日までの質問事項を整理しておくこと			
	12					発表当日までの質問事項を整理しておくこと			
	13					自己アピール発表会		発表内容について振り返り表現できるようにしておく。	
	14					呼吸法・ストレッチ テスト			
15	まとめ								
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。(3)発表会を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(実技)	○		○	○		30%		
	小テスト		○	○	○		20%		
	発表			○	○		50%		
履修上の注意									

科目名	障害児教育学						
科目名(英)	Pedagogy for the handicapped children						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	永野 淳子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	1. 障害をもって生きる、ハンディキャップをもって子どもから大人に成長する、ということについて、視聴覚教材や実習、ディスカッションを通して考察し学ぶ。2. 障害児教育の概念を理解する。3. 特別支援教育の仕組みについて学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		障害児についての実習やディスカッションができる。	
	○					障害児の概念が理解できる。	
	○					特別支援教育のしくみが理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	イラスト図解 発達障害の子どもの心と行動がわかる本 西東社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害児教育で学ぶこと				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	2	障害児教育の概念				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	3	特別支援教育の仕組みについて				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	4	視覚障害1				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	5	視覚障害2				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	6	聴覚障害				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	7	病弱				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	8	肢体不自由				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	9	知的障害・染色体異常				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	10	軽度発達障害1				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	11	軽度発達障害2				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	12	軽度発達障害3				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	13	軽度発達障害3				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
	14	昨今の子どもをめぐる問題:不登校				教科書の本日の授業について該当部分を復習する。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					80%
	レポート	○			○		20%
履修上の注意							

科目名	英語Ⅱ						
科目名(英)	English II						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	Antony Spear		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	Review of basic conjugations, introduction of British culture.						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		Students will be able to use symple English.	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Course Intro, Classroom language				分からない単語を調べておく。	
	2	Talking about yourself Present Simple				分からない単語を調べておく。	
	3	Pesonal interviews Question Formation				分からない単語を調べておく。	
	4	Talking about past activities - Past Simple				分からない単語を調べておく。	
	5	Interview - Past and Present Simple				分からない単語を調べておく。	
	6	Review. Mini-test				分からない単語を調べておく。	
	7	Talking about experience - Present Perfect				分からない単語を調べておく。	
	8	Talking about future plans - Future forms				分からない単語を調べておく。	
	9	Interview - Present Perfect, Future				分からない単語を調べておく。	
	10	Review. Mini-test				分からない単語を調べておく。	
	11	British culture - teacher presentation				分からない単語を調べておく。	
	12	British culture - student questions				分からない単語を調べておく。	
	13	Review				分からない単語を調べておく。	
	14	Review				It is need to prepare to sutdy test.	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○		○		100%
履修上の注意							

科目名	保健体育						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉 享子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	・姿勢制御について理解し呼吸や発声とのかかわりについて考えることができる。・医療従事者としての態度や自己管理能力について考え、自分なりの考えを持つことができる。・チームアプローチについて理解し他者を尊重した行動がとれるようになる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				発声における姿勢制御メカニズムについて説明することができる。	
	○	○				医療従事者としての態度や自己管理能力について知り自分なりの考えを説明することができる。	
	○	○		○		レクリエーションをもとにグループワークを通してチームアプローチについて理解し他者尊重ができる。	
テキスト・教材 参考図書	印刷資料にて行います。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(講義の進めかた)				講義概要について確認する	
	2	運動について・呼吸にかかわる筋肉について				配布資料を使用し復習しておく	
	3	姿勢にかかわる筋肉について				配布資料を使用し復習しておく	
	4	発声にかかわる筋肉について				配布資料を使用し復習しておく	
	5	音が形づくられるまでの動きを分析する				分析課題を進めておく	
	6	ビデオ鑑賞/動作分析をする				分析課題を進めておく	
	7	健康について(健康維持と睡眠)				配布資料を使用し復習しておく	
	8	健康について(健康維持と食事)				配布資料を使用し復習しておく	
	9	健康について(健康維持と運動)				配布資料を使用し復習しておく	
	10	健康について(ストレスについて)				配布資料を使用し復習しておく	
	11	レクリエーションについて(概要)				配布資料を使用し復習しておく	
	12	レクリエーションについて(プログラミングについて説明)				配布資料を使用し復習しておく	
	13	レクリエーションについて(グループについて演習)				グループにて実施内容を話し合っておく	
	14	レクリエーションについて(グループについて演習)				グループにて実施内容を話し合っておく	
15	グループごとにレクリエーション内容の発表				資料をまとめておく		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	接遇講座						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	<p>・コミュニケーション技能を高めるために、マナーと協働について学び、接遇の知識をを習得する。・傾聴を意識し、授業内のグループ活動に臨み、接遇場面に応じて自分の考えを言語化できるようにする。・先人の生き方に触れることで、人生に取り組む考え方に触れ、自分の志を述べるができるようになる。</p>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			接遇の基本事項について学び実践できる。	
	○	○				チームワークとコミュニケーションについて説明できる。	
	○		○			言語聴覚士として、チームで働く際の役割について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	GCB II 志の教育 学校法人 麻生塾 参考文献:ケアコミュニケーション ウィネット						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	好感・信頼感を高めるコミュニケーション				テキストの予習をしておく。	
	2	信頼感を高める非言語表現				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	肯定的な表現				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	敬意の種類と使い方				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	グローバルシティズンと志				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	自分を取りまく環境を知る				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	先人の生き方、人生への取り組み方を学ぶ				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	先人の志を学ぶ				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	自己を知る				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	私の志とは				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	志高く生きる				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	共感と同情				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	共感と同情				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	コーチングコミュニケーション				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	総合学習				授業資料のまとめを復習しておく。	
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	○		○	○		60%
	レポート	◎	◎				40%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐藤 敦子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	医療に携わる者は人体の構造を理解しておく事は重要である。人体を構成する器官系の 大要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を機能と関連付けて学習する。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			骨・関節系の構造と名称を理解し、説明できる。		
	○	○			神経の解剖的構造を理解し、説明できる。		
	○	○			主な神経経路について理解し、説明できる。		
	○	○			演習により骨形態と組織について理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	1. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学(第4版)。渡辺 正人 監修。廣川書店 2. あたらしい人体解剖学アトラス。佐藤 達夫 訳。メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献:1. ネット解剖学アトラス(第5版) 相磯 貞和 訳。南江堂 2. 日本人体解剖学 上・下巻(第19版)。金子 丑之助 原著。南山堂 3. 入門組織学 牛木 辰夫 著。南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	骨格系演習①:総論、頭蓋、顔面の骨				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	2	骨格系演習②:脊柱、胸郭を構成する骨				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	3	骨格系演習③:上肢帯・上肢の骨、下肢帯・下肢の骨				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	4	関節・靭帯演習:関節の構造、主な関節・靭帯				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	5	筋系演習①:総論、頭蓋、顔面の筋				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	6	筋系演習②:舌・口蓋・咽頭・喉頭の筋				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	7	筋系演習③:体幹の筋、背部の筋				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	8	筋系演習④:上肢の筋、下肢の筋				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	9	神経解剖学演習①:中枢神経系(総論、髄膜、脳室、発生)				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	10	神経解剖学演習②:中枢神経系(脊髄、大脳)				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	11	神経解剖学演習③:中枢神経系(間脳・脳幹・小脳)				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	12	神経解剖学演習④:脊髄神経、脳神経				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	13	神経解剖学演習⑤:自立神経、伝導路				授業に該当する教科書の部分について復習すること	
	14	骨学演習				骨学実習に向け復習をお願いします	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					100%
履修上の注意							

科目名	生理学演習									
科目名(英)										
単位数	1	時間数	30時間	担当者	坂口 博信					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年									
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにするを目標とする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験ることによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる				
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。				
		○	○			生理学実験を行い実際の生理機能について学習する				
テキスト・教材 参考図書	カラー図解 新しい人体の教科書 上・下巻 講談社ブルーバックス 参考文献: コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	中枢神経系1 中枢神経				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	2	中枢神経系2(運動機能の調節)				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	3	中枢神経系3(学習・記憶)				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	4	中枢神経系4(睡眠)				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	5	感覚1(視覚)				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	6	感覚2(聴覚)				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	7	感覚3(嗅覚・味覚)				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	8	感覚4(体性感覚)				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	9	実習 体性感覚1				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	10	実習 体性感覚2				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	11	実習 体性感覚3				授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	12	実習 随意運動の反応時間(光・音刺激)				実習の準備をお願いします				
	13	自由テーマ				実習の準備をお願いします				
	14	自由テーマ				実習の準備をお願いします				
15	定期試験									
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○					50%			
	実習レポート	○	○	○			50%			
履修上の注意										

科目名	精神医学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	諸江 健二		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	精神医学一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低知っておかねばならない事柄について学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学の歴史、三大精神病について概説できる。	
	○	○				精神機能について説明できる。	
	○	○				発達障害について概説できる。	
	○	○				人格障害について概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野精神医学 参考文献:精神科ポケット辞典(弘文堂)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神医学の歴史、三大精神病について				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	2	精神機能				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	3	統合失調症(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	4	統合失調症(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	5	うつ病(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	6	うつ病(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	7	神経症性障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	8	摂食障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	9	人格の障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	10	発達障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	11	発達障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	12	診断基準				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	13	外因性疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	14	まとめ講義				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
15	まとめ講義				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	耳鼻咽喉科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	増田 孝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	言語聴覚士に必要な耳科学、鼻科学、咽喉科学、頭頸部外科学の知識を臨床的側面に重点を置いて理解してもらう。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				伝系の構造と機能を説明できる。	
	○	○				感音系の構造と機能を説明できる。	
	○	○				鼻・副鼻腔の構造と機能を説明できる。	
	○	○				耳鼻咽喉科関連の疾患を概説できる。	
	○	○				頭頸部外科の疾患と手術を概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	外耳の解剖、機能				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	2	中耳の解剖、機能				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	3	中耳の解剖、機能				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	4	内耳の解剖、機能				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	5	内耳の解剖、機能				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	6	内耳の解剖、機能				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	7	外耳の疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	8	中耳の疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	9	中耳の疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	10	内耳の疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	11	内耳の疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	12	鼻・副鼻腔の解剖、機能				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	13	鼻・副鼻腔の疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	14	頭頸部外科の解剖、疾患				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
15	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	形成外科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大部 一成・川野 真太郎 新井 伸作		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	顔面や皮膚の成り立ちと顔面・皮膚疾患について知るとともに、構音や摂食・嚥下の 正常な状態を理解し、それらの病的な状態を把握できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				顔面や皮膚の成り立ちを理解し説明することができる。	
	○	○				顔面・皮膚疾患について理解し、説明することができる。	
	○	○				顔面・皮膚疾患について理解し、摂食嚥下および構音への影響を説明することができる。	
						頭頸外科学手術について理解し、適用について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	学校で使用する口腔外科の本 参考文献:①TEXT形成外科学 南山堂 ②標準形成外科学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	形成外科学総論(1)[大部]			配布資料をもとに復習しておく		
	2	形成外科学総論(2)[大部]			配布資料をもとに復習しておく		
	3	組織移植[大部]			配布資料をもとに復習しておく		
	4	外傷、熱傷、潰瘍(1)[川野]			配布資料をもとに復習しておく		
	5	外傷、熱傷、潰瘍(2)[川野]			配布資料をもとに復習しておく		
	6	外傷、熱傷、潰瘍(3)[川野]			配布資料をもとに復習しておく		
	7	口唇裂(1)[川野]			配布資料をもとに復習しておく		
	8	口唇裂(2)[川野]			配布資料をもとに復習しておく		
	9	口蓋裂(1)[大部]			配布資料をもとに復習しておく		
	10	口蓋裂(2)[大部]			配布資料をもとに復習しておく		
	11	頭蓋、顔面の先天異常[川野]			配布資料をもとに復習しておく		
	12	頭頸部外科手術に伴う障害(1)[大部]			配布資料をもとに復習しておく		
	13	頭頸部外科手術に伴う障害(2)[大部]			配布資料をもとに復習しておく		
	14	瘢痕とケロイド[川野]			配布資料をもとに復習しておく		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	平塚 正雄		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	歯科疾患や口腔疾患の病態を理解し、口腔機能障害に対する歯科的治療法を学び、歯科医師と言語聴覚士との協働・連携および多職種におけるチーム医療について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				歯科医学の概要について説明できる。	
	○	○				各歯科疾患の発現機序について理解し、症状について説明できる。	
	○	○				臨床における検査および評価について概要を説明できる。	
	○	○				口腔ケアの技法について理解し説明することができる。	
○	○				感染予防の理念を理解し、消毒・滅菌の方法および重要性を説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士のための基礎知識「臨床歯科医学・口腔外科学」(医学書院) 言語聴覚士に必要な歯科の知識(インテルナ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	歯科医学概論 歯科医学の歴史と重要性			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	2	歯・歯周の疾患			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	3	う蝕および歯髄炎と根尖性歯周炎			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	4	歯質および歯の欠損と不正咬合			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	5	口腔・顔面の異常			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	6	口腔・顎・顔面の外傷			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	7	口腔・顎の炎症			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	8	口腔粘膜の疾患			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	9	口腔・顎領域の嚢胞			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	10	口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	11	顎関節の疾患と唾液腺疾患			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	12	神経疾患と中枢性疾患および加齢による口腔機能障害			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	13	口腔の機能障害と検査および評価、消毒・滅菌法			教科書と配布プリントをもとに復習する		
	14	歯科・口腔外科の治療法および口腔ケア			教科書と配布プリントをもとに復習する		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	呼吸発声発語系医学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	増田 孝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	言語聴覚士に必要な呼吸、発声、嚥下の知識を臨床的側面に重点を置いて理解してもらう。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				呼吸発声における解剖とその生理について説明することができる。	
	○	○				声の検査法について理解し説明することができる。	
	○	○				発声障害について知り、原因理解をすることができる。	
	○	○				嚥下にかかわる諸器官の解剖とその生理について説明することができる。	
○	○				嚥下障害の臨床における概要を説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 医学書院 参考文献: 耳鼻科関連の学会誌(日本耳鼻咽喉科学会、耳鼻咽喉科臨床、喉頭、頭頸部外科、音声言語口腔咽頭、耳鼻と臨床)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	呼吸の生理、解剖(肺、気管、喉頭)、発声機能検査(MPT)			配布プリントをもとに復習しておく		
	2	呼吸の生理、解剖(肺、気管、喉頭)、発声機能検査(MPT)			配布プリントをもとに復習しておく		
	3	声帯の解剖、機能、呼吸との関連			配布プリントをもとに復習しておく		
	4	声帯の解剖、機能、呼吸との関連			配布プリントをもとに復習しておく		
	5	声の検査(声帯振動、声の高さ、強さ、呼気流率、聴覚印象、音響分析)			配布プリントをもとに復習しておく		
	6	声の検査(声帯振動、声の高さ、強さ、呼気流率、聴覚印象、音響分析)			配布プリントをもとに復習しておく		
	7	発声障害の原因、問診、視診			配布プリントをもとに復習しておく		
	8	発声障害の疾患			配布プリントをもとに復習しておく		
	9	嚥下に関わる器官、神経機構、嚥下のしくみ			配布プリントをもとに復習しておく		
	10	嚥下障害の原因、問診、視診			配布プリントをもとに復習しておく		
	11	嚥下障害の検査(VF、嚥下内視鏡検査)			配布プリントをもとに復習しておく		
	12	嚥下障害の手術治療(披裂軟骨内転術など)			配布プリントをもとに復習しておく		
	13	嚥下障害のリハビリ			配布プリントをもとに復習しておく		
	14	気管切開の適応、カニューレ			配布プリントをもとに復習しておく		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	神経系医学						
科目名(英)	Nerve System Medicine						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	中枢神経系のしくみの基礎を理解しアウトプットできる。障害の基礎を理解しアウトプットできる。国家試験の問題が解けるようになる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		国家試験問題を解くことができる。	
	○					神経系の構造を理解できる。	
	○					神経系の機能を理解できる。	
	○	○		○		学んだ内容を班ごとにプレゼンテーションできる。	
テキスト・教材 参考図書	全部みえる 脳・神経疾患(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業説明、シラバス提示、神経系全体像、大脳の構造				特になし。	
	2	大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、間脳、脳幹、小脳				Classiによる予習。小テスト予習。	
	3	脳動脈系、脳室系、脳脊髄液の循環、運動と感覚				Classiによる予習。小テスト予習。	
	4	脳神経 (IからV)				Classiによる予習。小テスト予習。	
	5	脳神経 (VIIからXII)				Classiによる予習。小テスト予習。	
	6	発表準備					
	7	発表					
	8	意識障害				Classiによる予習。	
	9	不随意運動、感覚機能、小脳、歩行障害、自律神経					
	10	脳・神経に関わる検査				Classiによる予習。	
	11	脳血管障害、脳梗塞、脳出血				Classiによる予習。	
	12	脱髄・変性疾患、脳腫瘍、頭部外傷、脊椎・脊髄疾患					
	13	感染症、末梢神経障害、					
	14	筋疾患・神経筋接合部疾患、まとめ					
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)発表以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○			○		70%
	小テスト	○			○		10%
	発表	○	○		○		10%
	クラッシュ・レポート				○		10%
履修上の注意							

科目名	生涯発達心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大森 晶子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	出生後から幼児期までの発達の様子と理論を理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				遺伝と環境要因が発達に及ぼす影響について述べるができる	
	○	○				発達理論と研究方法について説明できる	
	○	○				乳児の発達について説明できる(身体・運動・知覚・気質)	
	○	○				幼児の発達について説明できる(思考力・遊び・描画)	
	○	○				児童期以降の発達について説明できる(知能・感情・アイデンティティ)	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる乳幼児心理学 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	遺伝と環境				テキストで予習復習をする	
	2	発達の理論				テキストで予習復習をする	
	3	発達の研究方法				テキストで予習復習をする	
	4	胎児期から乳児期の発達				テキストで予習復習をする	
	5	乳児の身体発達				テキストで予習復習をする	
	6	乳児の運動発達				テキストで予習復習をする	
	7	乳児の知覚発達				テキストで予習復習をする	
	8	乳児の気質発達				テキストで予習復習をする	
	9	幼児の思考力の発達				テキストで予習復習をする	
	10	幼児の遊びと絵の発達				テキストで予習復習をする	
	11	児童の知能発達				テキストで予習復習をする	
	12	児童の知能・感情発達				テキストで予習復習をする	
	13	青年期とアイデンティティ				テキストで予習復習をする	
	14	成人期				テキストで予習復習をする	
15	まとめ				テキストで予習復習をする		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				90%
	レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	言語学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高井 岩生		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	音声学・音韻論・形態論の基本的概念の習得。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				最小対とはなにかを説明し、対を選択することができる。	
	○	○				相補分布と異音を説明することができる。	
	○	○				形態論を概説できる。	
	○	○				助詞、助動詞、動詞の活用を列挙できる。	
テキスト・教材 参考図書	配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	最小対				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	2	最小対				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	3	相補分布と異音				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	4	相補分布と異音				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	5	形態論の導入(形態素)				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	6	形態論の導入(形態素)				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	7	語の構造				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	8	語の構造				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	9	語種				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	10	語種				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	11	活用語 I				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	12	活用語 I				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	13	活用語 II				該当するプリントの内容を復習しておく。	
	14	活用語 II				該当するプリントの内容を復習しておく。	
15	全体のまとめ				該当するプリントの内容を復習しておく。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	音響学(聴覚心理学含む)								
科目名(英)									
単位数	1	時間数	30時間	担当者	藤井 忍				
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年								
授業概要	音響学における音響心理の基礎的事項を学ぶと共に聴覚の役割を理解する。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				音の要素について説明することができる。			
	○	○				音の大きさの知覚について説明することができる。			
	○	○				音の高さの知覚について説明することができる。			
	○	○				弁別閾について説明することができる。			
○	○				マスキング及び臨界帯域幅について説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	『言語聴覚士の音響学入門』海文堂出版 参考文献:『聴覚心理学概論』誠信書房								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	音の伝搬				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	2	純音、オクターブ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	3	音の強さ、音圧レベル				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	4	聴力レベル、感覚レベル、phon				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	5	スペクトル				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	6	音の大きさの知覚、フェヒナーの法則				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	7	スティーブンスのべき法則、ウェーバの法則				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	8	音の高さの知覚、mel尺度				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	9	場所ピッチ、時間ピッチ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	10	マスキング				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	11	臨界帯域				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	12	両耳聴、方向知覚				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	13	MLD、先行音効果				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
	14	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。			
15	全体のまとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○	○				100%		
履修上の注意									

科目名	音声学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	今村 亜子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	私たちは、普段人と話をする最、「音声」を媒介してコミュニケーションを行っています。前期で学んだ音声学の基礎をふまえて、後期は特に音韻論の観点から日本語の音声を考えていきます。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			言語聴覚士の臨床と音声の関りを説明することができる。		
	○	○			音声の構造について説明することができる。		
	○	○			アクセント、イントネーションについて説明することができる。		
	○	○			音声の知覚について説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	今泉 敏 「言語聴覚士のための基礎知識」音声学・言語学」東京:医学書院 齊藤純男 「日本語音声学入門(改訂版)」東京:三省堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音声学と臨床:ことばのくさりと音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	2	音声学と臨床:構音障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	3	音声学と臨床:音声障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	4	音声学と臨床:流暢性の障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	5	音素という概念を理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	6	最小対と相補分布という概念を理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	7	単音(分節音)より大きな音の単位であるモーラを理解する。特殊モーラを理解する。				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	8	モーラより大きな音の単位である音節と、音節構造について理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	9	超分節的特徴について理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	10	日本語のアクセントについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	11	イントネーションについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	12	リズム、ポーズ、プロミネンスについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	13	音響音声学(母音と子音)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	14	聴覚音声学(音声の知覚)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
15	全体のまとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	言語発達学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福島 志津		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	人間の誕生から死ぬまでの生涯発達の観点から、ことばの獲得、獲得の条件、発達過程について学ぶと同時に、言語発達に関係する他の領域の基礎も学習する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語発達の各段階における特徴を説明できる	
	○	○				定型発達を基に、言語発達障害児の評価を実施できる	
	○	○				環境要因の問題が言語発達に及ぼす影響について述べることができる	
	○	○				加齢による言語面の問題について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚療法シリーズ 2 言語聴覚障害総論Ⅱ (建帛社) 言語聴覚士のための言語発達障害学 (医歯薬出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	前期の復習			前期の定期試験の出題範囲を復習しておく。理解できていないところを書き出しておく		
	2	ことばの発達段階 ことばの発達段階・前言語期(受信面の発達)			振りかえり課題を行う		
	3	ことばの発達段階 ことばの発達段階・前言語期(発信面の発達)			振りかえり課題を行う		
	4	ことばの発達段階 ことばの発達段階・1~2歳児の言語(初語から語連鎖まで)			振りかえり課題を行う		
	5	ことばの発達段階 ことばの発達段階・1~2歳児の言語(統語面の発達)			振りかえり課題を行う		
	6	ことばの発達段階 ことばの発達段階・幼児期の言語(文理解の発達)			振りかえり課題を行う		
	7	ことばの発達段階 ことばの発達段階・幼児期の言語(表出と文字言語)			振りかえり課題を行う		
	8	ことばの発達段階 ことばの発達段階・児童期の言語(二次的ことば)			振りかえり課題を行う		
	9	ことばの発達段階 ことばの発達段階・児童期の言語(学習言語の理解など)			振りかえり課題を行う		
	10	ことばの発達段階 ことばの発達段階・構音の発達			振りかえり課題を行う		
	11	老化と言語発達(別資料で学習)			振りかえり課題を行う		
	12	環境とことば			振りかえり課題を行う		
	13	演習(構音検査、LCスケールなど)			振りかえり課題を行う		
	14	後期のまとめ①			まとめプリントで復習を行う		
15	後期のまとめ②			国試形式の課題(言語発達学の分野)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				85%
	レポート	◎	◎				15%
履修上の注意							

科目名	言語聴覚障害総論 V						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	福島志津		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	1. 言語聴覚士に必要な知識について、概要を口頭で説明できる。 2. 国家試験対策への取り組みを通して、継続して取り組む姿勢を身につけることができる。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				過去3年分の国家試験問題集を8巡終える	
	○	○				過去問題の選択肢ごとに○×の理由を説明することができる	
	○	○				国家試験セミナーを通して理解を定着し個々学生の対策ノートを作成する	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士国家試験過去問題集/セミナー資料を利用する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語聴覚士過去問題集の取り組み方についてのオリエンテーション				資料をもとに理解を深めておく	
	2	国家試験模擬試験実施				試験内容に復習をする	
	3	国家試験セミナー				セミナー内容について復習する	
	4	国家試験セミナー				セミナー内容について復習する	
	5	国家試験模擬試験実施				資料をもとに理解を深めておく	
	6	国家試験セミナー				セミナー内容について復習する	
	7	国家試験セミナー				セミナー内容について復習する	
	8	国家試験模擬試験実施				資料をもとに理解を深めておく	
	9	国家試験対策グループワーク				本日のワーク内容について復習する	
	10	国家試験対策グループワーク				本日のワーク内容について復習する	
	11	国家試験対策グループワーク				本日のワーク内容について復習する	
	12	国家試験対策グループワーク				本日のワーク内容について復習する	
	13	国家試験模擬試験実施				試験内容の復習をする	
	14	九州統一模擬試験実施				試験内容の復習をする	
15	卒業判定試験				試験内容の復習をする		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)模擬試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	失語症 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 失語症の言語聴覚療法の基礎となる、原因や症状、評価・訓練の知識を習得する。 失語症の症状を説明することができる。 失語症の症状からタイプ分類、障害メカニズムを挙げることができる。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				失語症の歴史や原因について説明することができる。	
	○	○		○		失語症の症状について説明することができる。	
	○	○				言語症状から失語症のタイプ分類と繋げて理解することができる。	
	○	○				失語症の障害メカニズムについて理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚療法シリーズ 改訂失語症 石川裕編著 健帛社 言語聴覚士のための失語症学 波多野和夫著 医歯薬出版 参考文献:失語症のすべてがわかる本 健康ライブラリーイラスト版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	失語症の定義 失語症の歴史				資料、テキストの該当項を読んでおく。	
	2	失語症の基礎 (定義・失語と脳) 小テスト				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	3	失語症の言語症状 聴覚的理解				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	4	失語症の言語症状 発話①				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	5	失語症の言語症状 発話②小テスト				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	6	失語症の言語症状 読字・書字				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	7	失語症候群 症候群の成り立ち 言語情報処理過程のモデル				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	8	各失語症とその特徴① 小テスト				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	9	各失語症とその特徴②				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	10	各失語症とその特徴③				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	11	各失語症とその特徴④小テスト				資料、テキストの該当項を復習しておく。	
	12	失語症の予後・リハビリテーション				資料、テキストの該当項を復習しておく。 失語症の事例内容を読んでおく。	
	13	失語症の評価・治療①				資料、テキストの該当項を復習しておく。 失語症の事例内容を読んでおく。	
	14	失語症の評価・治療② 小テスト				資料、テキストの該当項を復習しておく。 失語症の事例内容を読んでおく。	
	15	まとめ				講義1回目から15回目までの資料内容を確認しておく。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	○	○		○		30%
履修上の注意							

科目名	高次脳機能障害 I						
科目名(英)	Higher brain dysfunction I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	高次脳機能障害に関する概念を理解し、定義・解剖・症状等の基礎知識を習得する。国家試験に向け知識の定着を図る。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		国家試験問題を解くことができる。	
	○					高次脳機能障害の基礎を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学(医学書院) 参考文献:全部みえる 脳・神経疾患(成美堂出版) 高次脳機能障害マエストロシリーズ 2 画像の見かた・ 使いかた(医歯薬出版株式会社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	概論:高次脳機能障害とは、脳解剖・脳動脈の灌流領域				Classiによる予習。	
	2	各論:注意障害					
	3	各論:記憶障害				Classiによる予習。小テスト予習。	
	4	各論:失行					
	5	各論:失認				Classiによる予習。小テスト予習。	
	6	各論:半側空間無視					
	7	各論:半側空間無視				Classiによる予習。小テスト予習。	
	8	各論:認知症②					
	9	各論:脳梁離断症候群				Classiによる予習。小テスト予習。	
	10	各論:脳梁離断症候群					
	11	各論:社会行動障害				Classiによる予習。小テスト予習。	
	12	各論:画像読影(基本) 脳解剖を基礎として。					
	13	各論:画像読影(応用) 症例の画像を読み解く。				Classiによる予習。小テスト予習。	
	14	概論:高次脳機能障害の評価(基本)				小テスト予習。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○			○		70%
	小テスト・クラーシー	○					30%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	相浦 満津子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	小児の言語発達の阻害要因となる諸障害について、基本的症状や評価の方法を理解し、発達段階や障害特性に応じた支援方法を理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			知的障害(ダウン症候群も含む)の発達特性について述べるができる		
		○			言語発達の評価を実施できる		
	○	○			言語発達障害児の支援方法について述べるができる		
	○	○			障害特性、家族支援の方法について説明できる		
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害 言語発達障害学 藤田郁代(監) 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	知的障害の発達特性			テキストで予習復習をする		
	2	知的障害の発達特性			テキストで予習復習をする		
	3	知的障害の発達特性(ダウン症候群)			テキストで予習復習をする		
	4	知的障害の発達特性(ダウン症候群)			テキストで予習復習をする		
	5	言語発達検査演習(PVT-R)			検査マニュアルを事前に読んでおく 記録用紙に目を通しておく		
	6	言語発達検査演習(PVT-R)			検査マニュアルを事前に読んでおく 記録用紙に目を通しておく		
	7	言語発達検査演習(PVT-R)			検査マニュアルを事前に読んでおく 記録用紙に目を通しておく		
	8	言語発達検査演習(PVT-R)			結果の考察について、グループで共有する		
	9	言語発達障害の支援(概説)			テキストで予習復習をする		
	10	言語発達障害の支援(語用論的アプローチ)			テキストで予習復習をする		
	11	言語発達障害の支援(言語発達段階に応じた訓練)			テキストで予習復習をする		
	12	言語発達障害の支援(言語発達段階に応じた訓練)			テキストで予習復習をする		
	13	言語発達障害の支援(障害特性に応じた支援)			テキストで予習復習をする		
	14	言語発達障害の支援(家族等環境への支援)			テキストで予習復習をする		
15	まとめ			テキスト、資料を見て、まとめておく			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	聴覚障害 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	井上 康子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	I 聴覚障害をもつ人々が抱える問題について具体的イメージをもつ。II 聴覚障害をもつ人々に対するハビリテーション・リハビリテーションの基本的な事項を理解する。III 聴覚検査の目的と方法の概要を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				小児聴覚障害の特徴を説明することができる。	
	○	○				中途失聴の特徴を説明することができる。	
	○	○				盲ろうの特徴を説明することができる。	
		○				純音聴力検査と語音聴力検査を模擬的に実施できる。	
○	○				検査結果から模擬的に報告書を作成できる。		
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚療法シリーズ5 山田弘幸編著 改訂 聴覚障害Ⅰー基礎編 建帛社 2014 言語聴覚療法シリーズ6 山田弘幸編著 改訂 聴覚障害Ⅱー臨床編 建帛社 2011 立木孝監修 聴覚検査の実際 改訂4版 南山堂 2017						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	聴覚障害小児が抱える問題と聴覚活用の意義				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	2	聴覚障害小児のハビリテーション①				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	3	聴覚障害小児のハビリテーション②				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	4	中途失聴者が抱える問題				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	5	中途失聴者のリハビリテーション:読話体験				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	6	盲ろう者が抱える問題/対応のあり方				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	7	聴覚検査の概要				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	8	純音聴力検査(気導・骨導聴力検査)①				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	9	純音聴力検査(気導・骨導聴力検査)②				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	10	純音聴力検査(気導・骨導聴力検査)③				検査結果を模擬的にレポートする。	
	11	語音聴力検査①				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	12	語音聴力検査②				検査結果を模擬的にレポートする。	
	13	新生児・乳幼児聴覚検査①				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
	14	新生児・乳幼児聴覚検査②				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。	
15	全体のまとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。		
評価方法	(1)レポートを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				90%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意							